

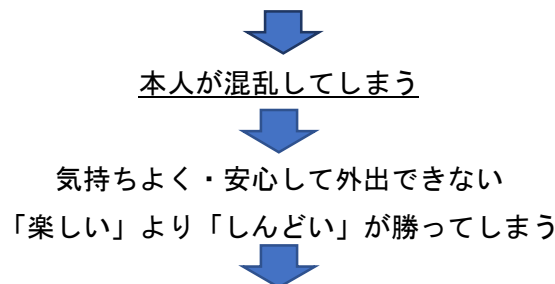
支援手順書について

1. 支援手順書とは？

個別支援計画の内容から、具体的な活動とその工程・必要な配慮の方法などを、その人に合わせて詳細に記入したもの。

障害特性に配慮した留意点を整理し、活動の詳細を決め、(基本的には時系列に沿って)各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。現場で支援を実施するときには、支援手順書に沿って支援することが大切。

支援者それぞれが、本人の特性に関係なく、思い思いのやり方で接してしまうと・・・



安心して・気持ちよく過ごしてもらうために、本人の特性に合わせた統一した支援が必要

2. 支援手順書のメリット

同じ支援に関わる支援者全員が支援手順書に基づいて統一した支援を提供することで

- ① 本人が混乱なく落ち着いて活動できる
 - ➡ 本人にとって分かりやすい・見通しを持ちやすい・意思決定しやすい
 - ➡ 本人の混乱をなくし、安心して取り組むことができる
- ② 支援者にとっても支援業務とその手順や配慮する点などを確認できる
 - ➡ 支援者にとっても安心の材料に、新たに入社した支援員さんにとっても実際の支援場面での個別支援マニュアルとなりえる
 - ➡ 結果的に実際の支援場面での心理的負担等を減らすこととなり、従業員の離職率を減らすなどのメリットがある
- ③ 支援の質が担保できる
 - ➡ 手順書に基づいて実際の支援場面での本人にとって大切なポイントを抑えることで、誰が支援しても一定の質の支援を行える。特定の支援者だけしか支援できなかった利用者さんに対して複数の支援者が関わられるようになる
- ④ 統一した支援を行いそれに基づいて記録をしていくことで客観的なデータを集められる
 - ➡ 本人の正しい状態をつかみ、支援の効果を確認することができる
 - ➡ チームで情報を共有し、支援の変更・改善を行っていくために大切

➡ 計画 (Plan)、実践 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) の PDCA サイクル



利用者、支援員が共に安心して活動・外出等に取り組むことで本人の生活の質を上げていくことができる、そのことが利用者の豊かな暮らし・人生につながっていく

3. 支援手順書を作成する際のポイント

(1) アセスメント（支援計画シート、本人の特性と必要なサポートなど）を根拠に本人の動きや必要な配慮を考える

- ① 当日までに準備しておくこと
- ② 本人の動き
- ③ 支援者の動きや必要な配慮
- ④ 当日の事前準備

(2) 作成するうえで意識しておきたい「本人さんに確実に伝えたい6つの情報」
いつ、どこで、何を、どのくらい、どうやって、次は

6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- ① 時間の工夫（見通し）
- ② 場所の工夫（活動ごとの対応、刺激の整理）
- ③ 方法の工夫（やり方・終わり・次・始まり）
- ④ 見え方の工夫（ヒント、着目）
- ⑤ やりとりの工夫（コミュニケーション、コミュニケーションツール）

4. 支援手順書の作成例について ※県様式のモデル事例を基に外出時の支援手順書を作成

(1) Aさん

重度知的障害で自閉症の特徴を強く有する

- ➡ 支援の枠組みをしっかりとっておく必要があり、提示の仕方や手順に、不穏時の対応などについても細かく統一する必要がある
- ➡ 2例用意 ① 特に支援者の動きについて細かく書いたもの
② ①を基にポイントを整理してまとめたもの
- ➡ ①のように今までしていた支援手順について細かく書き出し、②のように整理するのも一つの方法
- ➡ 大切なポイントを記載したうえで、細かな部分は職員間で確認・共有する手立てを確立しておき、新人への引継ぎも考慮する

(2) Bさん

中軽度知的障害で発達障害の特徴を有するが、色々考えてしてみたい・することができる

- ➡ 支援の大枠は決めておき、何をするのか・どこへ行くのか支援員と相談して決める
- ➡ 触法行為などの可能性もあるため、見守りのポイントや方法なども記載
- ➡ その場で判断に困る返答を求められる場合の答え方についても記載

(3) Cさん

中度知的障害で自閉症の特徴を有する

- ➡ 本人の希望する行き先についていくつかの候補がある
 - ① 候補ごとに別の手順書を作る
 - ② 作成例のように複数の行き先を予め書いておく
- ➡ 「車での移動」など1回の外出支援中に複数回同じことがある項目は、このような書き方もある
 - ※基本的には見る人（現場で支援する人）や記録の観点から、同じことでもその都度手順に載せておく方が良い
- ➡ 基本的には時系列で書いていくのが望ましいが、時系列で書きにくい内容もあるので、「〇〇の時は手順書の△△の手順を見る」という書き方もある

5. まとめ

「強度行動障害の状態にある人」は「混乱している人」と言い換えることができるかもしれませんが。そのような人に対しては支援手順書に基づいて統一した支援を行っていくことで、混乱を少なく・無くしていくことが必要です。また、強度行動障害は自閉症との関連性が高いと言われています。そのために、本人の障害特性についてアセスメントを進め支援を考えていくことが必要です。その人に関わる複数の事業所がお互いの支援計画シートを参考にしながら、本人のアセスメント、関係者間の共通理解を進めていけたらと考えています。

その人の支援を広げていき地域社会で豊かに暮らしていくためにも、支援計画シートと支援手順書をうまく活用しながら、うまくいった内容を他の支援場面や支援員・関係者にも広げていきたいと願っています。